

第二回俳句賞「25」大賞

つばさめく

開成高等学校

海の艶ほむらの艶や喧嘩独楽かな
くちびるの暮れ残りたる葛湯かな
押し花のうすむらさきや読始
湖のひかり定まる嚏かな
寒声の中を流れて高瀬川
飛び立てば鷹師は風になびかぬ樹
春寒のみづうみを向く南口
草餅の底に張り付く力かな
一日で回れる島や瓜の花
なかぞらを黙す風鈴仏桑花
エイサーや風に聳ゆるふくらはぎ
人なくて橋つばさめく初秋かな
タンカーに沖まつさらや冬瓜汁
秋声を午後のホームに探しをり
並べ売る本ましろなり秋風鈴
豊年や軽トラックに錆すこし
二泊分めくる夜寒のカレンダ―
山茶花の散りかけといふ光かな
残照のおもさなりけり落葉籠
心労の化身のやうな海鼠かな
ポインセチア選る手すこしく酔つてをり
灯籠の裏へ流れて浮寝鳥
星の夜へ戸を開け放つ煤湯かな
クリスマス橋はひかりを分か場所
年の市子とつなぐ手のまへうしろ